

式 辞（全日制）

校門の横にある桜の木が、今年も見事に満開の花を咲かせていました。春の光に包まれて咲き誇るその姿は、本日この日を迎えた皆さんのが初々しさと重なつて見えます。

本日ここに、桐生市長 荒木恵司様、同窓会長 前原毅様、PTA 会長 蓮本泰則様はじめとするご来賓の皆様、そして保護者の皆様をお迎えし、令和七年度 桐生市立商業高等学校の入学式を挙行できることを、本校教職員を代表して、心より御礼申し上げます。

ただいま入学を許可いたしました二百四十名の新入生の皆さん、入学おめでとうござります。今日まで皆さんを支えてこられた保

護者の皆様にも、心よりお祝い申し上げます。

皆さんには今日から、本校の生徒として新たな一步を踏み出します。この三年間は、間違いなく皆さん的人生の基礎を形づくる、かけがえのない時間です。日々の学びや経験はもちろん、ここで出会う仲間や先生方が、将来の皆さんにとって大きな支えとなることでしょう。

特に、高校時代の友人とは、ときに競い合い、支え合い、刺激し合いながら、深く濃密な関係を築いていくことになります。その友人たちは、やがて一生の仲間となり、互いに支え合い、成長し合う存在へと育つていきます。また、皆さんの成長を信じ、そつと寄り添い、導いてくれる恩師との出会いも、きっとこの学校にはあります。どうか、人との出会いを大切にしてください。

これからの中学生生活で、私が皆さんにぜひ身につけてほしいのが、「自ら考え、判断し、行動する力」です。私たちを取り巻く社会は、これまでにないスピードで変化します。正解が一つではなく、過去の成功が通用しない場面も増えています。そんな時代に必要とされるのは、与えられた問いに答える力だけでなく、「自分で問いを立てる力」です。

学校では、皆さん一人ひとりが「主人公」です。授業、学校行事、部活動、そして日々の生活の中で、「誰かがやるだろう」ではなく、「自分がやる」という当事者意識を持つて行動してほしいと思います。「自分には関係ない」ではなく、「自分にできることは何か」と問い合わせ続けてください。その小さな積み重ねが、やがて皆さん自身の大きな成長へとつながります。

もちろん、迷いや不安、失敗もあるでしょう。しかし、自分で選んだ道、自ら挑戦した結果ならば、その経験はすべてが糧になります。失敗を恐れず、自分らしく歩んでください。

ここで、今年一月から三月に放送されたTBS 日曜劇場『御上先生』のセリフを一つ紹介します。このドラマは現代の教育のあり方を問い合わせ直す内容で、主演の松坂桃李さん演じる御上先生が、生徒たちにこう語りかけます。

「考へても、考へても答への出せない問題は、この世にたくさんある。でも考へ続けること、答へが出ない問題を投げ出さずに考へ続けること——その力そのものが、『考へる力』だ。考へて。」

これは、まさに今の皆さんに必要な力で

す。「わからない」「正解がない」と思考を止めるのではなく、あきらめずに考え続ける。その姿勢こそが、学ぶという営みの本質です。

そして、このような力を育てるためには、学校だけでなく家庭の支えも不可欠です。保護者の皆様と学校が協力し、互いに手を携えて生徒を支えていく——これこそが、これらの方の教育の要となります。

私たち教職員は、生徒一人ひとりの声に耳を傾け、日々の変化を見逃さず、心を込めて向き合ってまいります。どうか保護者の皆様には、今後とも本校の教育活動にご理解とご協力を賜りますよう、お願ひ申し上げます。

新入生の皆さん。今日から始まる高校生活は、かけがえのない時間です。その三年間をどう過ごすかは、自分自身の心がけ次第です。「やらされる」のではなく、「自分でや

る」という主体性をもつて、充実した日々を送ってください。

そして、校門の桜のように、その時が来たときには堂々と、自分らしい花を咲かせられるよう、今日からの一日一日を大切に過ごしてください。皆さんの成長を、心から楽しみにし、期待しています。

最後に、ご来賓並びに保護者の皆様には、本校の教育活動に対するこれまで以上のご支援とご協力をお願ひ申し上げ、式辞といたします。

令和七年四月八日

桐生市立商業高等学校

校長 星野 亨